

令和6年度 外郭団体 概要・評価シート

1. 基本情報

団体名	公益財団法人 静岡市文化振興財団			所管課	文化政策課				
所在地	静岡市葵区御幸町4番地の1	代表者	理事長 高木 雅宏	設立年月日	平成6年07月01日				
基本財産	225,000千円	市出資額 (基本財産等に占める割合)		225,000千円 (100%)					
設立根拠	一般社団法人及び一般財団法人に関する法律に基づく財団法人								
設立目的	演劇、舞踊、美術、音楽、科学、歴史、生涯学習等の文化振興に関する事業を行い、市民が各種文化に触れる環境の整備と市民自身による文化創造活動を促進し、もって魅力ある静岡文化の創造、継承、発信に寄与することを目的とする。								
業務内容	静岡市文化振興事業の実施 静岡市文化、社会教育施設等の管理運営								

2 経営計画書の取組状況

(1) 取組実績

(令和6年度)

	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
文化をはぐくむ人づくり	文化鑑賞事業実施数	52事業	59事業		
	文化鑑賞事業鑑賞者数	180,000人	316,936人		
	支援育成事業の実施数	50事業	78事業		
	主要取組名称	事業概要			備考
	静岡市民文化会館指定管理業務	静岡市民文化会館の管理・運営			
	静岡音楽館指定管理業務	静岡音楽館の管理・運営			
	静岡科学館指定管理業務	静岡科学館の管理・運営			
	静岡市美術館指定管理業務	静岡市美術館の管理・運営			
	静岡市歴史博物館指定管理業務	静岡市歴史博物館の管理・運営			
	文化活動振興事業業務	市民が文化芸術に触れる機会を提供することを目的とした文化事業の実施			
1	団体意見	全ての評価指標で目標を上回り、多くの市民に多彩な事業を提供できた。静岡市美術館展覧会「珠玉の東京富士美術館コレクション 西洋絵画の400年」では、観覧者数目標40,100人に対して71,643人に達したほか、3月末で休館となる静岡市民文化会館の千穂楽公演「すんぷ落語」では、来場者目標2,000人に対して5,769人を迎える等大きな成果をあげ、文化鑑賞事業全体で59事業、316,936人の参加者を集めた。 支援育成事業では静岡音楽館「第28回『静岡の名手たち』オーディション合格者によるコンサート」、静岡科学館「静岡県高等学校生徒理科研究発表会県大会」、静岡市歴史博物館「学校教育への支援事業」など、文化活動の次代を担う人材の発掘と育成に寄与すべく全体で78事業に取り組んだ。			
	関係課意見	芸術鑑賞・参加形態の多様化に対応して、メディアアーツ事業の提案を受け、令和7年度事業化するなど、市の考えに沿って事業に取り組んでいる。 指定管理業務や文化活動振興事業において、文化鑑賞事業を中心に多数の事業を実施し、3つの評価指標全てで目標を達成している。 指定管理施設においては、静岡市美術館の展覧会や改修工事に伴う休館前の静岡市民文化会館での催事について、来館者数の増加に大きく寄与しており、適切な維持管理とともに大きな成果をあげたと評価できる。			

	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
文化がはぐくむ地域づくり	普及啓発事業実施数	600事業	684事業		
	普及啓発事業参加者数	140,000人	135,415人		
	利用者満足度（静岡市歴史博物館）	85.00%	94.30%	未記入分は母数から除く	
	主要取組名称	事業概要			備考
	静岡市民文化会館指定管理業務	静岡市民文化会館の管理・運営			
	静岡音楽館指定管理業務	静岡音楽館の管理・運営			
	静岡科学館指定管理業務	静岡科学館の管理・運営			
	静岡市美術館指定管理業務	静岡市美術館の管理・運営			
	静岡市歴史博物館指定管理業務	静岡市歴史博物館の管理・運営			
	静岡市生涯学習センター指定管理業務	静岡市生涯学習センターの管理・運営			
	静岡市文化振興財団30周年記念「笑顔デカケルプロジェクト」新文化島2.0	法人設立30周年を記念して市民文化会館の人工台地や野外ステージ、ロビー等を会場とした市民参画のアートイベントの実施。			
2	団体意見	各施設において多彩な文化事業及び生涯学習事業を実施し、概ね目標を達成することができた。特に、財団30周年記念事業「新文化島2.0」は、法人の持つ事業運営ノウハウとネットワークを結集した事業として実施したもので、2日間で11,893人の来場者を集めることができた。本事業で得た知見も活かしながら、引き続き地域文化への理解増進、地域コミュニティの形成を推進していく。			
	関係課意見	<p>当該団体は「文化がはぐくむ地域づくり」において、多くの普及啓発事業を実施している。また、文化財保存活用地域計画の「活かす」に基づき、企画展の開催や他団体との連携の取組を担っており、市の考えに沿って事業に取り組んでいる。特に「文化島2.0」は、静岡市民文化会館の広場と施設の両方を使い、財団が有するネットワークを活かして地元アーティストを出演させて、年齢や性別などを超え、様々な市民が文化の幅広さ、奥深さを体験するイベントであり、市の政策を具現化したものとして評価できる。</p> <p>生涯学習事業については、講座の実施において、これまでに培われたネットワークを活用し、文化施設をはじめ、大学、行政機関、地域と連携した企画運営がなされている。また、地域人材の育成事業にも取り組み、地域コミュニティの活性化に寄与している。引き続き、財団の持つ専門性を活かし、生涯学習事業を着実に推進されたい。</p>			

	施策名称	評価指標		目標値	実績	備考		
3 文化でつながるまちづくり	入館者数	静岡科学館	250,000人	196,372人				
		静岡市美術館	300,000人	286,668人				
		静岡市歴史博物館	187,000人	189,243人				
	利用者満足度	静岡市民文化会館	85.00%	86.50%	未記入分は母数から除く			
		静岡音楽館	85.00%	89.80%	未記入分は母数から除く			
		静岡科学館	85.00%	96.23%	未記入分は母数から除く			
		静岡市美術館	85.00%	90.67%	未記入分は母数から除く			
		静岡市歴史博物館	85.00%	94.30%	未記入分は母数から除く			
	静岡市民文化会館施設利用者数		250,000人	412,048人				
	静岡市民文化会館利用率		75.00%	67.39%				
	静岡音楽館施設利用者数		80,000人	81,646人				
	静岡音楽館利用率		75.00%	75.30%				
	主要取組名称	事業概要			備考			
	静岡市民文化会館指定管理業務	静岡市民文化会館の管理・運営						
	静岡音楽館指定管理業務	静岡音楽館の管理・運営						
	静岡科学館指定管理業務	静岡科学館の管理・運営						
	静岡市美術館指定管理業務	静岡市美術館の管理・運営						
	静岡市歴史博物館指定管理業務	静岡市歴史博物館の管理・運営						
	団体意見	<p>利用者の満足度は86.50%～96.23%と高水準にあり、来館者及び事業参加者から高い評価を得た。一方で入館者数、施設利用率については静岡科学館入館者数が196,372人（達成率78.55%）となる等未達もあり、コロナ禍を経て市民の文化活動に変容が生じたことの影響がうかがえる。</p> <p>法人全体で市民参加型事業の開催や文化芸術を担う人材や団体を育成するための事業に取り組むほか、メディア芸術やサブカルチャー分野に関する事業への取り組み、ＩＣＴ技術の発展に伴うオンラインやオンラインマンドを活用した事業への取り組みなど、新たな利用者の開拓や文化活動の創出などに取り組んでいく。</p>						
	関係課意見	<p>あるがままを受け入れる文化コミュニティの醸成や創造的な活動拠点の創出に対応して、ラウドヒル計画（年齢・障害の有無等を問わない参加者で公演を行う。）や、財団が有する専門性やネットワークを活かした文化活動促進事業における特別支援学校などへの音楽・演劇等アートリーチの実施、障害者アートにおける先進的な取り組みを行っているNPOと財団との繋がりを活かした障害者アート展を行うなど、市の考えに沿った取組を実施している。また、指定管理業務において、施設管理を適切に行っており、利用者の満足度は高い。一方で、一部施設の入館者数に未達があるため、目標達成に向けた取組を期待する。</p>						

	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
4 文化でにぎわうまちづくり		連携事業の実施数	40事業	28事業	
		観覧者数	静岡市美術館 静岡市歴史博物館（有料展示）	120,000人 56,000人	149,917人 49,620人
		事業参加者満足度	静岡市美術館 静岡市歴史博物館	85.00% 85.00%	94.80% 94.90%
			静岡市民文化会館 静岡音楽館	85.00% 85.00%	98.10% 96.90%
			静岡科学館	85.00%	99.20%
			静岡市美術館	85.00%	94.80%
			静岡市歴史博物館	85.00%	97.10%
	主要取組名称	事業概要			備考
	静岡市民文化会館指定管理業務	静岡市民文化会館の管理・運営			
	静岡音楽館指定管理業務	静岡音楽館の管理・運営			
4	静岡科学館指定管理業務	静岡科学館の管理・運営			
	静岡市美術館指定管理業務	静岡市美術館の管理・運営			
	静岡市歴史博物館指定管理業務	静岡市歴史博物館の管理・運営			
	団体意見	観覧者及び事業参加者の満足度は全ての施設・項目で目標の85%を大きく超えた94.8%~99.2%となり、市民にとって魅力ある事業を展開することができた。 外部の市民団体や企業等との連携事業数が未達であったが、文化鑑賞事業や普及啓発事業として実施した事業にも外部団体等との連携実績があり、今後も様々な取り組みの中でこれまでに培ってきたネットワークを活用した事業を展開し、まちのにぎわいづくりに貢献していく。			
	関係課意見	市内文化施設の活用や地元企業と連携を図り、静岡市の資源を活かした特色ある文化事業の企画を積極的に行っている。 「文化島2.0」は、財団が有する専門性やネットワークを活かして多種多様な文化体験の機会や多くの地元アーティストの出演を実現し、年齢や性別に関わりなく1万人を超える様々な市民が文化の幅広さ、奥深さを体験できるイベントとなっており、文化でにぎわうまちを具現化した取組といえる。 外部の市民団体や企業等との連携事業については、様々なネットワークを活用した事業の展開を期待する。 文化財保存活用地域計画の方向性の1つである「活かす」取組として、市民活動団体とのパネル展示や大学等との連携事業を行っており、市の考えに沿った事業を展開している。			

	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
5	生涯学習推進事業	生涯学習団体の新規立ち上げや既存団体の活動支援を目的とした事業数	33事業	77事業	
		各種講座、講演会等開催数	550事業	539事業	
		各生涯学習センター施設利用者数	500,000人	538,192人	
		各生涯学習センター稼働率	40.00%	42.20%	
		利用者満足度	90.00%	99.35%	未記入分は母数から除く
		受講生満足度	85.00%	91.66%	
主要取組名称		事業概要			備考
静岡市生涯学習センター指定管理業務	静岡市生涯学習センターの管理・運営				
	静岡市南部勤労者福祉センター指定管理業務	静岡市南部勤労者福祉センターの管理・運営			
	静岡市小鹿老人福祉センター指定管理業務	静岡市小鹿老人福祉センターの管理・運営			
団体意見		利用者数は538,192人（達成率107.6%）、満足度99.35%（達成率110.4%）となり、いずれも高水準で成果を上げた。今後は、目標とする開催数の達成に努めつつ質の向上を図り、より豊かな学びを提供していく。多様な層へ働きかけ、誰もが安心して学び続けられる場を育み、持続可能で次世代へと継承される学びの環境を築いていく。			
関係課意見		令和6年度について、施設利用者数は前年度と比較して増加しており、満足度も高い水準を保っている。事業については、事業計画に沿って適切に実施されており、受講者満足度も高く、さらに市民主体のまちづくりを担うシチズンシップに富んだ人材育成や地域コミュニティの活性化に努めている。 引き続き、財団の持つノウハウや、専門性・総合性・地域性の経営資源を活用した強みを活かし、生涯学習活動を着実に推進されたい。			

	施策名称	評価指標	目標値	実績	備考
歴史資源を活かした学習及び交流促進事業	静岡市歴史博物館入館者数	187,000人	189,243人		
		静岡市歴史博物館有料展示の観覧者数	56,000人	49,620人	
		静岡市歴史博物館利用者満足度	80.00%	91.70%	未記入分は母数から除く
主要取組名称	事業概要			備考	
	静岡市歴史博物館指定管理業務	静岡市歴史博物館の管理・運営			
6	団体意見	令和6年度は、入館者数189,243人（達成率101.20%）、満足度91.7%（達成率114.63%）と、主要目標を上回る成果を達成した。一方、有料観覧者数は49,620人（達成率88.61%）にとどまり、今後の課題と認識される。展示事業では多様なテーマと体験型展示を導入し、幅広い層の関心を喚起。特に「Quiz Knockと巡る江戸東京博物館展」は大きな反響を得た。教育面では学校連携を強化し、博物館の活用促進に寄与。観光交流では地域連携を拡充し、誘客と活性化を推進した。今後も地域の歴史文化の発信拠点として、魅力ある展示と教育支援を展開していく。			
		入館者数及び満足度における年度目標値を達成し、目的達成に向け着実に取り組んでいる。一方、有料観覧者数の目標達成率は88.61%に留まり、無料来館者を有料展示へ誘うための施策に取組んでもらいたい。			

(2) 施策や取組実施に係る現状分析・課題

令和6年度は、当法人の設立30周年記念事業として「静岡市文化振興財団設立30周年記念 笑顔デカケルプロジェクト」を冠して全施設で多数の企画を実施した。各文化施設が連携して年間を通じて大小様々な催事を創り上げたことで、市民にとって新しい文化芸術に対する興味関心に出会う機会を提供することができた。

また、静岡市のパートナーとして、文化鑑賞事業等の実施を通じて静岡市の文化施策及び生涯学習施策の実現に努め、法人が管理運営する施設全体で1,811,003人の来場者を迎えた。

取組実績として、全37項目の評価指標のうち29項目では目標値を上回ることができたものの、個別の事業においては目標値に届かなかったものも散見されるほか、施設の利用者数や入館者数など指標に届かなかった項目もある。コロナ禍が終息したものの、長期間にわたり人ととの接触を避ける状況が続いたことで、市民活動や文化活動の中には完全に元通りの活動に戻れていない状況もあるため、その回復に向けた取り組みが必要である。

(3) 分析結果や課題を踏まえた対応方針

評価指標を達成できなかった項目のうち、利用者数・入館者数を向上させるため、法人全体で市民参加型事業の開催や文化芸術を担う人材や団体を育成するための事業に取り組むほか、メディア芸術やサブカルチャー分野に関する事業への取り組み、ＩＣＴ技術の発展に伴うオンラインやオンラインマンドを活用した事業への取り組みなど、新たな利用者の開拓や文化活動の創出などに取り組んでいく。

3 団体の財務・人員の状況

(1) 収支状況（千円）

区分		R4年度決算	R5年度決算	R6年度決算	備 考
収入	事業収入	2,139,859	2,347,396	2,324,041	
	事業外収入	210,920	187,148	288,487	
	その他	0	0	0	
	合 計	2,350,779	2,534,544	2,612,528	
(委託・補助等静岡市からの収入総額)		1,876,338	1,898,266	1,985,288	
支出	事業支出	2,123,378	2,236,374	2,325,552	
	事業外支出	156,529	272,140	179,156	
	その他	0	0	0	
	合 計	2,279,907	2,508,514	2,504,708	
収支差		70,872	26,030	107,820	

(2) 資産の状況（千円）

区分		R4年度決算	R5年度決算	R6年度決算	備 考
資産	固定資産	1,293,612	1,382,130	1,291,391	
	流動資産	511,782	702,585	638,740	
	合 計	1,805,394	2,084,715	1,930,131	
負債	固定負債	234,098	243,368	265,615	
	流動負債	299,626	466,956	298,088	
	合 計	533,724	710,324	563,703	
正味財産	基本財産／資本金	225,000	225,000	225,000	
	剰余金等	1,046,670	1,149,390	1,141,428	
	合 計	1,271,670	1,374,390	1,366,428	

(3) 役員・職員の状況

ア 役員数(人) (R7.4.1)

	評議員		理事	
	内市退職者・派遣		内市退職者・派遣	
常勤	0	0	2	1
非常勤	11	1	7	1
合計	11	1	9	2

イ 職員数

	正規職員	非正規職員	市退職者・市派遣	合計	備考
R5	96	107	21	224	
R6	89	106	19	214	
R7	85	108	17	210	

※4月1日時点

(4) 財政・人員体制の現状分析・課題

- ・静岡市からの業務発注に応じた採用活動を行ってきたため、正規職員の年齢分布が35～54歳に偏っている（35歳未満16.5%、35～54歳78.8%）。また、職員の新陳代謝が始まっておらず、賃上げも重なり、団体として人件費は増加傾向にある。
- ・物価高騰や賃金上昇、コロナ禍後の利用者数伸び悩み、市民文化会館の休館に伴う業務減少、指定管理料の積算方法見直し等の要素が影響しており、当面経常収支での赤字が続く見込みである。

(5) 分析結果や課題を踏まえた団体における財政・人員体制の見通しと今後の取組

【財務基盤の安定化】

- ・チケット収入の確保や助成金・寄附金獲得への取り組み等による収入増と業務改善の推進等による支出削減の取り組みを並行して進め、財務基盤の安定化に努めている。また、本部の体制について、機能を維持しつつ人員削減を行う等スリム化に取り組んでいる。
- ・指定管理業務については、個々の業務での採算性を念頭に、引き続き事業計画と收支予算の精査に取り組んでいく。また、法人全体でDXによる業務効率化を進め、本部体制の更なるスリム化を目指す。休館中の市民文化会館については、静岡市の動向を注視しながら、指定管理業務の獲得に向けた準備を進めていく。
- ・指定管理業務における財団の創意工夫、或いは指定管理業務から離れた財団独自の取り組みとして、採算性も意識した新たな自主事業の開発を進めていく。

【組織基盤の強化】

- ・法人の人的基盤確立のため、人材育成計画を策定してこれに基づく研修を実施する等職員育成に取り組んでいる。また、プロパー職員の幹部登用を進め、その育成に努めている。
- ・令和14年頃からプロパー職員の退職が本格化し、職員の新陳代謝と世代交代が始まるため、これがスムーズに進むよう計画的な育成を行う。また、職員の新陳代謝に併せて若年層の職員採用を行う等年齢分布の是正にも取り組んでいく。

4 全体総括・評価

外郭団体

- ・令和6年度は財団設立30周年を迎える記念事業「笑顔 デ カケル プロジェクト」に法人一丸となって取り組んだ。法人の強みである「専門性・地域性・総合性」を活かし、特定費用準備資金を用いて実施された本事業は、当法人が積み上げたノウハウと資金を市民に還元する文化事業として成果を収めた。
- ・利用者数・入館者数を向上させるため、法人全体で市民参加型事業の開催や文化芸術を担う人材や団体を育成するための事業に取り組むほか、メディア芸術やサブカルチャー分野に関する事業への取り組み、I C T技術の発展に伴うオンラインやオンラインデマンドを活用した事業への取り組み等、新たな利用者の開拓や文化活動の創出等に取り組んでいく。
- ・静岡市では「外郭団体のあり方に関するPT」が設置され、外郭団体の役割や経営状況の検証が行われている他、指定管理料の積算方法の変更等指定管理者制度運用に関する方針にも変化が生じている。静岡市の外郭団体として、また、文化・生涯学習施設の指定管理者として、静岡市との連絡を密にして課題や目指すべき方向性を共有し、具体的な取り組みを進めていく。

所管課

- ・静岡市の文化政策を具現化するために必要不可欠な存在として、財団の設置目的や市から求められている役割を踏まえたうえで、高い専門性やこれまでに培った経験や実績の蓄積を活かして市からの委託業務を実施している。また、指定管理業務においては、先述の専門性や培ったノウハウを活かして、施設の設置目的や役割を理解し、適切に業務を実施している。
 - ・人的基盤確立のため、人材育成計画を策定してこれに基づく研修を実施する等、職員育成や、プロパー職員の幹部登用を進めその育成に努めている。
- チケット収入の確保や助成金・寄附金獲得への取り組み等による収入増と業務改善の推進等による支出削減の取り組みを並行して進め、財務基盤の安定化に努めている。本部の体制については、機能を維持しつつ人員削減を行う等スリム化に取り組んでいる。

5 市への要望・意見（外郭団体記載）

- ・設置から30～40年を超える施設もあり、施設、設備の老朽化が著しい。毎年、施設改善要望書を作成して各所管課へ提出し、課題認識の共有を図っているが、多くの箇所で改善が進んでおらず、対応に苦慮する場面も多い。設備、機器等の計画的な修繕及び更新を希望する。
- ・指定管理者の決定（議決）が3月と遅く（内定も1月）、準備期間が不足しがちである。また、文化施設及び生涯学習施設では中長期的な観点からの取り組みが必要とされており、他都市では指定管理期間を標準（5年間）よりも長い期間とする事例も見られる。他都市の状況も踏まえ、指定管理期間の長期化と選定時期の前倒しについて検討を希望する。
- ・利用者数（＝利用料金収入）の増加やコスト削減についての実績が、次期指定管理期間の目標や積算等に直接反映されるため、指定管理者が高い目標を掲げてそれを達成すると、それが指定管理料を減少させる構造になっている。社会情勢も踏まえた適切な目標の設定等により、指定管理者の経営努力の成果が指定管理者側にも反映されるインセンティブの設定を希望する。

6 外郭団体への要望・意見（所管課記載）

これまで培ってきたネットワークや総合性を活かして、国や社会情勢の動向を踏まえた、新しい切り口の事業展開を提案・実施する役割や、行政と社会課題・地域課題を共有し、文化を通じて、その課題解決に向けた施策及び取組を静岡市に提案・実施する役割も期待したい。